

みたか国際化円卓会議第 13 期 第 4 回会議録要旨

日 時	令和 6 年 10 月 3 日（木）18：30～20：00
会 場	三鷹市教育センター 2 階 第二中研修室
出席者	委員 9 名（欠席委員 5 名）、事務局 6 名、三鷹国際交流協会事務局長、防災課防災担当課長、（傍聴者なし）
【当日配布資料】 （資料1）防災ガイドブック 他市参考資料 （資料2）三鷹市防災課資料 （資料3）第 3 回会議録要旨 （資料4）第 13 期委員名簿	

【記号について】

・	委員の発言
→	事務局の発言

【議事内容】

1 第 13 期議題について

→前回の会議では、外国籍市民の生活支援に関するものを作成するという第 13 期のテーマをもとに、意見を出し合った。最終的に、非常時・災害時に特化したものを作成するのが良いとなったことを踏まえて、他自治体の防災ガイドブックを参考に、災害時に役立つガイドブックのようなものを作成するのがよいのではと考えている。第 13 期では、制作物に掲載する内容について、今回を含む計 3 回の会議で提言としてまとめ、制作物は、令和 7 年度以降に市が作成する方向で進めていきたいと考えている。配布資料を参考に、どのような情報を取り入れるべきか、どのようなものを作ればよいかなど、ご意見をいただきたい。

→資料 1 をもとに他自治体で作成している防災ガイドブックの内容について説明。

→防災課防災担当課長より、資料 2 をもとに三鷹市の防災の取組について説明。

→(MISHOP) MISHOP では、防災課の職員による防災出前講座を年に 1、2 回実施しているほか、市で行っている総合防災訓練に外国籍市民と通訳翻訳ボランティアに参加していただいているが、情報発信の不足を課題と感じている。また、災害時の通訳翻訳ボランティアの動きなどの仕組みを見直していきたいと考えている。

(1) ガイドブックの掲載内容について

- ・災害を経験したことがない人は重要性が分からない。ガイドブックにデータを盛り込み、危機感を与えるのも良いのではないかな。
- ・アメリカではハリケーンが起きた時に、外に出て映像を撮影し、TIKTOK に投稿している人がいた。やってはいけないことをガイドブックに入れるのが良いと思う。
- ・外国籍市民に対して、「あなたも関係あるよ」と分かってもらうためにショックな言葉を並べた方が良いと思う。杏林大学に来日していた留学生は、来日後数日で地震を経験したことで意識が高まったり、MISHOP の講座に行かなくてはと思うようになった。しかし、そういうきっかけがないと意識は低いままだと思う。
- ・震災を経験した人の経験談や意見を入れるのが良いと思う。

→震災を経験した外国籍市民がどう感じたのかをリアルに伝えるために、3.11 の時に外国籍市民から出た意見をメッセージとして掲載するのはどうか。その情報の集め方を検討していく必

要がある。

→ワークショップなどで意見を出し合ったりするのも良いと思う。

・自分の帰り道を調べるのが大切だと思う。帰り道の安全な道、危険な道を知ることでもある。

→（防災課）東京都では、離れたところで地震が起きた時には3日間は帰らないようお願いしている。

→外国籍市民だけでなく、日本人にも言えることがあると思う。日本人にとっても、避難所が分かった方が良いのは同じであるし、何のために外国籍市民向けの防災ガイドブックを作るのかを明確にしておくべきである。

→（MISHOP）どこから情報を得たらよいかという点は特に重要だと思う。日本人には、市のホームページにアクセスしたり、防災無線を聞けば良いなど分かりやすく周知されているが、外国人の場合はどうか、というのは考えた方が良いと思う。

・「～の前に」という情報が必要だと思う。

・他自治体のガイドブックを読んで、震度2の揺れはこのくらいとか、そのような情報には興味を惹かれない。「私にはこの経験があって、一番大切なのはこれです」というようなストーリーがあったら良いと思う。

・日本人は可愛いキャラクターを多く使うが、府中市の表紙を参考にできたら良いと思う。

→長く日本にいる人は大体わかると思う。メインは来たばかりの人に分かりやすくするというようにコンセプトを明確にしないと、ブレしてしまうのではないか。

→日本に滞在する旅行者の人が一番危機感はあると思う。日本のことはあまりよくわかってないのは旅行者だと思うが、外国人旅行者向けに防災情報をまとめた Safety tips というアプリを観光庁が提供している。それはこういう時はこうしましょう、という内容が書かれており、簡単な情報であれば手に入る。三鷹市として何か作るということであれば、三鷹市で暮らしている人、暮らし始めた人、知り合いに日本人がいなくて三鷹で生活を始めた人などに役立つものにする必要がある。

・ガイドブックの大きさに関しては、配布資料の大きさと小さいと感じたが、A4サイズなら読める。情報は少ない方が見やすい。配布資料の中では、福岡県が一番わかりやすいと感じた。また、可愛い絵よりは分かりやすい絵が良いと思う。

(2) 作成言語について

→他自治体の防災ガイドブックは、共通してやさしい日本語で作っているほか、外国語版も作成している。例えば福岡県では、英語、中国語、韓国語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、ミャンマー語など多くの言語で作成している。

・三鷹市では、他自治体と同様に他の言語も作るなら、英語や中国語も作るか。

→やさしい日本語以外に、英語、中国語、韓国語も作ることになると思う。

・スマートフォンがあれば、同時通訳・同時翻訳ができる。

→災害時に、スマートフォンはバッテリーが切れると使えなくなってしまう。バッテリーがあるうちに家族の安全確認やニュースを見たいと思うのではないか。防災ガイドブックは、災害時に備えるべきことや地震発生時の対応方法等の決まった情報が記載されていれば、防災バッグに普段から入れておくことができる。電池を使わずに紙で確認ができることは、災害時では便利だと思う。

→その方が何語のガイドブックを必要としているのかを調べる必要もある。

・私は民生委員として活動している。外国籍市民というと英語が思い浮かぶと思うが、実際に

訪問すると中国の方で、英語が分からず中国語か日本語でお願いしますという場合があった。複数の言語で作ることは必要であると思う。

- ・三鷹市に住んでいる外国籍市民の内訳は分かるか。それが分かれば、大体どの言語を作れば良いか分かると思う。

→令和6年の1月時点では、外国籍市民の合計は4,300人程。人数が100人を超えている国は、中国(1,250人)、韓国(650人)、アメリカ(350人)、台湾(230人)、フィリピン(200人)、ネパール(180人)、イギリス(120人)である。合計しても4,000人程度なので、皆さんに送ることは一つの手である。

(3) ガイドブックの周知方法について

- ・防災ガイドブックは対象者にどのように配布するのか。市役所に取りに来てもらうのか、住民登録されている外国籍市民には各戸に配布するのか、どこかで説明会を開催するのか、防災ガイドブックを認識してもらうための方法を考える必要がある。

→(MISHOP) MISHOPを利用する方にはご案内できるが、限られてしまう。

→周知方法についても提言の中に含めていただけたらと思う。

→(MISHOP)三鷹市に転入するときには市民課などで渡せるが、既に三鷹市に住んでいる方に対してはどう配布するのかも検討が必要である。

- ・三鷹市にはコミュニティ・センターがあるので、そこにガイドブックを置いておくことで、周知ができるのではないかな。

→コミュニティ・センターを知らない方も多くいる。

- ・地震に遭ったことがなく、自分には関係ないと思う人もいる。市役所に行く機会が少ない人は、わざわざ市役所へガイドブックをもらいに行かないのではないかな。市からコミュニティ・センターに働きかけて、連携できたら良いと思う。新聞を読むことができ、図書室もあり、外が暑いときには涼めるようにもなっているととても良い施設のため、活用できたら良いのではないかな。

- ・昔は、必ず市役所に足を運んで手続きを行っていた。しかし、今はオンラインで手続きができるようになり、市役所に行く機会が減っている。ガイドブックを受け取るためにも市役所へ行く理由を作る必要があるのではないかな。

→ガイドブックをどう周知していくのが難しいと思う。

→ホームページに載せたとしても、自らアクセスしなければ見られない。

- ・留学生に対しては、学校を介して繋げることはできる。

(4) その他(災害全般について)

- ・3年程前の大雨で避難した人から、避難所ではペットの同伴不可であることに驚いたと聞いた。

→(防災課)現在、三鷹市では全避難所でペット同伴可となっている。屋根のある場所にペットスペースを用意している。その代わり、飼い主にはケージを持ってくるようお願いしている。

- ・実際に災害が起きた時、まずどこに連絡をしたら情報が得られるのか。そのあたりは外国籍市民の皆さんに情報が届いているのか。

- ・大使館に登録すると必要な情報が確認できる。

- ・防災グッズの用意はするが、忘れてしまう。しっかり用意している人もいるが、それはリマインドがあるからだと思う。リマインドすることで防災グッズの見直しを周知できる。

- ・外国籍市民には意識がないという意見に賛成する。日本人は小さい頃から避難訓練を受けて

いるが、外国籍市民は避難訓練を経験しておらず、一回理解したところで意識は高まらないと思う。意識の違いを乗り越える必要がある。子どものころから身についた危機感が日本人にはある。私には、犯罪に対する危機感がとてもある。財布などを盗まれないようにという意識を常に持っている。その意識は子どものころから身についている。日本人が外国に行った時にスリによく合うが、それは外国籍市民にとっての災害への危機感と同じで、意識がないからである。危機感を持ってくださいと言ってもなかなか難しいのが現状である。

→海外で避難訓練はないのか。

- ・台風についてはあるが、地震についてはない。
- ・地震が起きた時に、まずどうしたら良いか分からない。地震が起きた時に机の下に隠れるという発想がない。地震が起きた時にガイドブックを見ようと意識しないといけないと思うが、ガイドブックを取り出す前にけがをするかもしれないし、その状況では見られないという懸念もあると思う。

2 次回日程・その他

→第5回会議は12月頃の開催を予定している。時期が近くなったら、事務局より日程調整のご連絡をさせていただく。事務局でどんな情報を掲載するかを整理し、次回会議では、こんな情報があったら良いという点で議論を進めていきたい。

以上